

第113期
報告書

株主のみなさまへ

2016 / 6 / Vol.51



DOWA

証券コード:5714

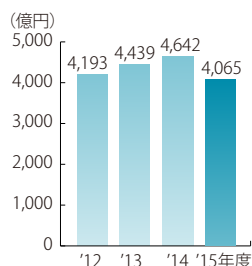
連結決算ハイライト

	2013年3月期 (2012年度)	2014年3月期 (2013年度)	2015年3月期 (2014年度)	2016年3月期 (2015年度)
売上高 (億円)	4,193	4,439	4,642	4,065
営業利益 (億円)	245	317	390	350
経常利益 (億円)	272	350	420	350
親会社株主に帰属する 当期純利益 (億円)	152	233	265	218
総資産 (億円)	3,497	3,587	3,791	3,644
純資産 (億円)	1,424	1,669	1,956	2,033
1株当たり当期純利益 (円)	51.41	78.77	89.69	73.75
1株当たり配当金 (円)	12	15	18	18
1株当たり純資産 (円)	451.41	534.75	632.30	658.66
総資産経常利益率(ROA) (%)	8.1	9.9	11.4	9.4
自己資本当期純利益率(ROE) (%)	12.3	16.0	15.4	11.4
設備投資額 (億円)	184	165	172	229
減価償却費 (億円)	169	162	155	151
有利子負債 (億円)	1,071	996	866	811

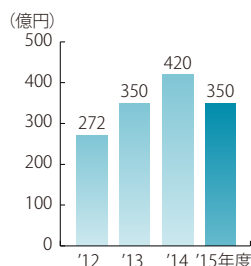
※ROAは経常利益を期中平均総資産で割って計算しております。

※ROEは親会社株主に帰属する当期純利益を期中平均自己資本で割って計算しております。

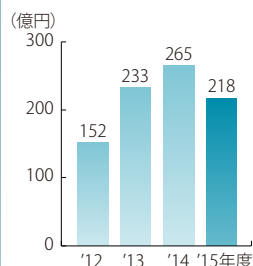
売上高の推移



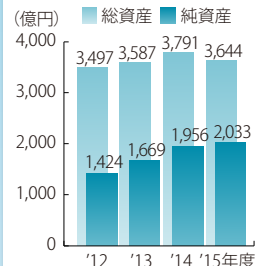
経常利益の推移



親会社株主に帰属する 当期純利益の推移



総資産および 純資産の推移





2015年度 (2016年3月期) 経営成績と 今後の取り組み

代表取締役社長
山田 政雄

2015年度の経営成績

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、2015年度(2016年3月期)における当社グループの事業の状況と経営成績をご報告申し上げます。

わが国の経済は、個人消費は力強い回復までには至らなかった一方、企業業績は改善に向かうなど、緩やかな回復基調にありました。世界経済は、米国をはじめ全体としては緩やかな成長が継続しましたが、中国や東南アジアでは景気減速が進み、また原油をはじめとする商品価格の下落が続くなど、依然として先行きは不透明な状況でした。

当社グループの事業環境については、自動車関連製品の需要の一部で国内やアジアにおいて自動車生産が減少した影響を受けました。また、スマートフォン向けは一部製品で顧客での在庫調整の影響を受けました。新エネルギー関連製品は引き続き堅調に推移しました。相場環境については、金属価格は、需要の減退懸念や米国の利上げを背景に、総じて下落傾向が続きましたが、第4四半期には上昇に転じる局面もありました。一方、為替相場は、米国の

堅調な経済情勢を背景に概ね1ドル120円台で推移しましたが、第4四半期には急速に円高が進行しました。

当社グループは、このような状況のなか、2015年度から始まった新たな中期計画の基本方針に沿って、海外事業のさらなる拡大、成長市場・周辺分野への展開による事業拡大、事業競争力の継続的強化に向けた施策を実施してきました。

これらの結果、当期の売上高は前期比576億円減の4,065億円となり、営業利益は同40億円減の350億円、経常利益は同69億円減の350億円、親会社株主に帰属する当期純利益は同47億円減の218億円となりました。

なお、当社は、株主の皆様への配当を経営における最重要課題の一つと位置付けており、企業体質強化と将来の事業展開に備えた内部留保の充実を勘案のうえ、業績に応じて配当を行う方針としています。当期の配当金については、当期の業績、今後の事業展開、財務体質の強化などを総合的に勘案し、前期と同額の1株当たり18円としました。

今後の取り組みと重点施策

2016年度は市場動向を見極めながら、次に挙げる施策を着実に実行していきます。

● 海外事業のさらなる拡大

環境・リサイクル部門では、インドネシアやタイなどにおいて新たな廃棄物処理施設の建設に向けた取り組みを進めます。製錬部門では、欧州や東南アジア、米国の拠点を活用し白金族リサイクル原料の集荷を拡大します。金属加工部門では、新たに進出したメキシコにおいて貴金属めっきラインの建設を進めるとともに、中国やタイ、台湾において切断やプレスなど金属加工の強化に取り組みます。熱処理部門では、需要が拡大するインドやメキシコにおいて熱処理炉の拡販や熱処理加工工場の建設を進めます。

● 成長市場・周辺分野への展開による事業拡大

今後も成長が見込まれるハイブリッドカーなどの次世代自動車分野では、コネクタ向け高特性銅合金の開発・拡販に取り組みます。情報通信機器分野では、小型化や薄型化などに対応したリードフレーム向け、コネクタ向け銅合金の拡販

を進めます。パワー半導体分野では、はんだの代替となる新たな接合材料の特性向上、高い放熱性や信頼性を有する金属セラミック基板の用途拡大に取り組みます。また、ヘルスケア機器向けLEDや滅菌、殺菌機器向け深紫外LEDなど、今後市場の立ち上がりが見込まれる分野での新規製品の開発やサンプルワークを進めます。

● 事業競争力の継続的強化

環境・リサイクル部門では、秋田において新たな低濃度PCB廃棄物処理施設を立ち上げます。製錬部門では、秋田製錬㈱において亜鉛製錬設備の新設、更新を進める一方、小坂製錬㈱において不純物対応力を高めることで、両製錬所の連携強化とリサイクル原料の積極処理を図ります。電子材料部門では、需要拡大が続く新エネルギー向け銀粉および新規電極材の拡販に取り組みます。金属加工部門では、銅合金や貴金属めっきおよび金属セラミック基板の生産性向上、コスト競争力強化に取り組みます。熱処理部門では、国内の熱処理加工の新規受注拡大や市場動向に対応した生産工程の統合を進めます。

<今後の重点施策>

環境・リサイクル部門	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアやタイなどにおける新たな廃棄物処理施設の建設など、東南アジアでの事業拡大 ・メルテックいわき㈱における新規施設建設など一般廃棄物の処理拡大 ・新たな土壌浄化工法による国内の大型公共投資関連の需要取り込み
製錬部門	<ul style="list-style-type: none"> ・欧州や東南アジア、米国の拠点を活用した白金族リサイクル原料の集荷拡大、原料処理設備の増強 ・秋田製錬㈱での重要設備の新設・更新、小坂製錬㈱での不純物対応力強化 ・米国のパルマー亜鉛・銅プロジェクト、メキシコのロス・ガトス亜鉛プロジェクトなど鉱山開発の推進
電子材料部門	<ul style="list-style-type: none"> ・人体検知用や医療用などセンサー向けLEDの特性向上、ヘルスケア機器などへの用途拡大 ・需要拡大が続く新エネルギー向け銀粉および新規電極材の拡販 ・滅菌、殺菌機器向け深紫外LED、燃料電池向け電極材など新規製品の特性向上
金属加工部門	<ul style="list-style-type: none"> ・メキシコでの貴金属めっきライン建設、中国やタイ、台湾拠点を活用したアジアでの金属加工の強化 ・ハイブリッドカーやスマートフォン向け高特性銅合金の開発・拡販、高い放熱性などを有する金属セラミック基板の用途拡大 ・銅合金や貴金属めっき、金属セラミック基板の生産性向上、コスト競争力強化
熱処理部門	<ul style="list-style-type: none"> ・インドやメキシコでの熱処理炉の拡販、東南アジアでのメンテナンス対応力強化 ・インドやメキシコにおける熱処理加工工場の新設、生産能力増強 ・国内における熱処理加工の新規受注拡大、市場動向に対応した生産工程の統合

2016年度(2017年3月期)の見通し

世界経済は米国を中心に回復基調にありますが、中国や東南アジアでは景気減速が続いており、円高や金属価格の下落傾向も続くなど、依然として先行きは不透明な状況です。

こうした不透明な事業環境も織り込み、2016年度については、売上高は前期比215億円減の3,850億円、経常利益は同60億円減の290億円を計画しています。今後も、市場動向

を見極めながら、引き続き各施策を着実に実行し、事業の強化を進めていきます。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2016年度計画

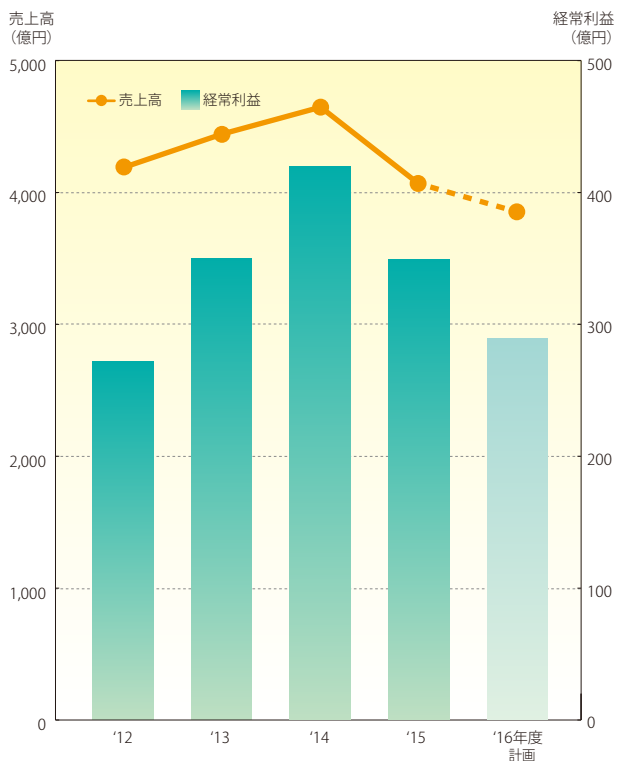
(単位:億円)

	2015年度実績	2016年度計画	増減
売上高	4,065	3,850	△215
営業利益	350	290	△60
経常利益	350	290	△60
親会社株主に 帰属する当期純利益	218	200	△18

相場前提

	2015年度		2016年度
	上期実績	通期実績	通期前提
為替 (¥/\$)	121.8	120.1	115.0
銅 (\$/t)	5,653	5,215	4,800
亜鉛 (\$/t)	2,019	1,831	1,800
インジウム (\$/kg)	369	302	250

これまでの業績推移と2016年度の計画



東南アジアでの廃棄物処理事業の拡充

東南アジアでは、経済成長にともない廃棄物の発生量が増加しています。一方、廃棄物処理施設は不足しており、人々の環境保全意識が高まるなか、そのニーズは拡大しています。

DOWAグループは、2009年から東南アジアにおいて廃棄物処理事業を展開しています。今後も各国のニーズに応じた取り組みを進め、東南アジアの環境改善に貢献してまいります。

各国の廃棄物発生状況・今後のDOWAの取り組み



メキシコでの自動車関連事業の拡大

メキシコでは自動車関連メーカーの進出にともない、自動車産業の拡大が続いています。

こうした状況のなか、DOWAグループは、メキシコ中部のバヒオ地区に貴金属めっきならびに熱処理の事業拠点を開設しました。

貴金属めっき

- ・自動車のスイッチ・端子など電気系統の接点に、信頼性を高めるため、貴金属めっきを施す
- ・日本、タイの2拠点からグローバルに供給



貴金属めっき品



自動車の電装化により需要拡大

2016年 メキシコ拠点設立 貴金属めっき工場の建設開始

2017年 貴金属めっき加工開始予定

熱処理

- ・熱などを利用した表面処理を行い、ギアやシャフトなど自動車部品の強度や寿命を向上させる
- ・日本、米国、タイ、中国、インド、インドネシアの世界6か国にて事業を展開



熱処理済みの部品



熱処理設備

2015年 メキシコ拠点設立
熱処理設備の販売・メンテナンス開始
設備投資需要を先行して取り込み
熱処理加工工場の建設開始

2017年 熱処理受託加工開始予定

自動車産業が成長するメキシコ

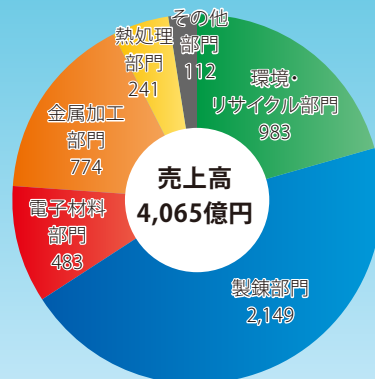
- ・多くの国と自由貿易協定を締結
- ・巨大市場の北米、今後成長が見込まれる南米に近い
- ・日系、欧米系自動車メーカーの進出相次ぐ

・自動車のグローバル生産拠点となりつつある
(2015年は世界第7位となる約340万台を生産)



部門別の 営業状況

部門別売上高構成 (2015年度)



※各部門の売上高には、連結調整による消去分678億円を含んでおります。

凡例 — 通期売上高 (赤線) — 通期営業利益 (青線)

環境・リサイクル部門

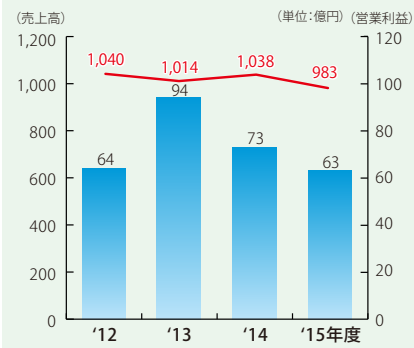
廃棄物処理は、国内の産業廃棄物発生量が横這いのなか、集荷ネットワークの強化を進め堅調に受注を拡大しました。土壌浄化は、新たな浄化工法を開発するなど、受注の拡大を図りましたが、売り上げは伸び悩みました。リサイクルは、電子部品スクラップの国内外での集荷拡大に努めたものの、国内の廃家電の減少や貴金属価格下落による影響を受けました。海外事業では、東南アジアにおける廃棄物処理事業の拡大に努めたものの、インドネシアやタイにおいて、石油・天然ガス開発が停滞した影響を受けました。

これらの結果、当部門の売上高は前期比5%減の983億円、営業利益は同14%減の63億円となりました。



エコシステム山陽側の低濃度PCB廃棄物処理施設

部門別連結売上高・営業利益の推移



製錬部門

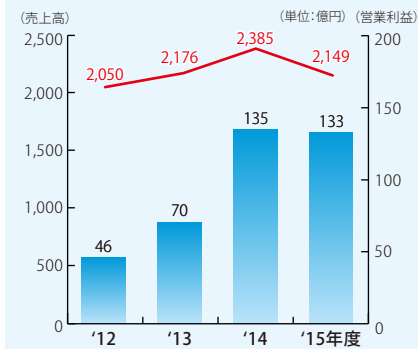
金属価格は、銅や亜鉛などのベースメタル、金や銀などの貴金属およびインジウムなどのレアメタルについて、総じて下落傾向が続きましたが、第4四半期には上昇に転じる局面もありました。為替相場は、前期より円安水準の概ね1ドル120円台で推移しましたが、第4四半期には急速に円高が進行しました。このような状況のなか、各製錬所の稼働は引き続き順調に推移し、副産金属や自動車排ガス浄化触媒から回収されるプラチナなどの白金族類を含め、生産量を確保しました。コスト面では電力原単位や物品費の削減に努めました。また、原油価格下落による電力価格引き下げのメリットも受けました。

これらの結果、当部門の売上高は前期比10%減の2,149億円、営業利益は同2%減の133億円となりました。



小坂製錬(株)のリサイクル原料対応炉

部門別連結売上高・営業利益の推移



電子材料部門

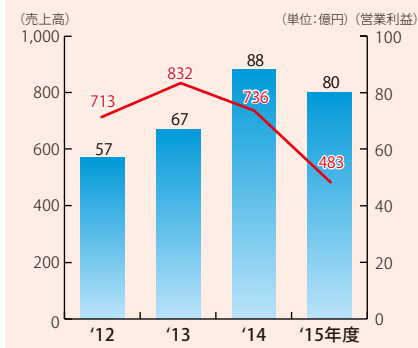
半導体材料製品は、第3四半期以降、顧客での在庫調整の影響を受け、スマートフォン向けLEDの販売量が減少しました。導電材料製品は新エネルギー向け銀粉の拡販に努め、機能材料製品はデータテープ用次世代磁性材料の拡販を進めました。また、市場ニーズに応える新規製品開発に引き続き取り組みました。

これらの結果、売上高は、銀粉において原料代を含まない受託加工の取引へ一部変更した影響により、前期比34%減の483億円となりましたが、売上原価に含まれる原料代も同様に減少し、営業利益は同9%減の80億円となりました。



磁性材料が使われているデータテープ

部門別連結売上高・営業利益の推移



金属加工部門

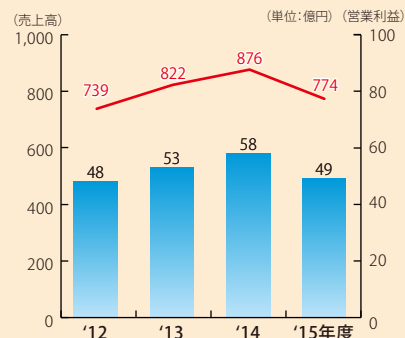
端子やコネクタに使われる伸銅品は、自動車向けやスマートフォン向けを中心に拡販を図りましたが、国内やアジアで一部生産調整の影響を受けました。一方、貴金属めっき加工は、自動車向けの拡販を図り、堅調に推移しました。金属セラミック基板は、海外を中心に産業機械や鉄道向けの販売に注力しましたが、中国をはじめとした設備投資減退の影響を受けました。

これらの結果、当部門の売上高は前期比12%減の774億円、営業利益は同15%減の49億円となりました。



タイの金属加工・貴金属めっき加工工場

部門別連結売上高・営業利益の推移



熱処理部門

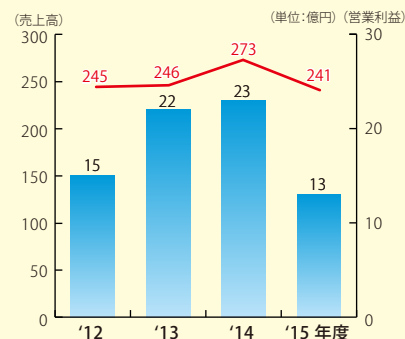
熱処理加工は、海外の自動車市場の成長に合わせて海外拠点の設備増強を進め、インドやタイ、中国において受注拡大を図りました。熱処理炉は、国内の製造拠点集約による生産性向上を進めるとともに、海外向けの設備拡販やメンテナンス受注の拡大に努めましたが、国内やアジアでの自動車生産の調整などの影響を受けました。

これらの結果、当部門の売上高は前期比12%減の241億円、営業利益は同43%減の13億円となりました。



インドの熱処理加工設備

部門別連結売上高・営業利益の推移



地図で見るDOWAグループ

2016年3月31日現在

DOWAエコシステム(株)

- 1 蘇州同和資源综合利用有限公司
- 2 江西同和資源综合利用有限公司
- 3 台湾事務所
- 4 PT. PRASADHA PAMUNAH LIMBAH INDUSTRI (インドネシア)
- 5 TECHNOCHEM ENVIRONMENTAL COMPLEX PTE. LTD. (シンガポール)
- 6 DOWA ECO-SYSTEM SINGAPORE PTE.LTD. (シンガポール)
- 7 WASTE MANAGEMENT SIAM LTD. (タイ)
- 8 BANGPOO ENVIRONMENTAL COMPLEX LTD. (タイ)
- 9 EASTERN SEABOARD ENVIRONMENTAL COMPLEX CO., LTD. (タイ)
- 10 GOLDEN DOWA ECO-SYSTEM MYANMAR COMPANY LIMITED (ミャンマー)

DOWAメタルマイン(株)

- 11 バンクーバー事務所
- 12 Cariboo Copper Corporation (カナダ)
- 13 NIPPON PGM AMERICA, INC. (アメリカ)
- 14 メキシコ事務所
- 15 MINERA TIZAPA, S.A. DE C.V. (メキシコ)
- 16 Nippon PGM Europe s.r.o (チェコ)
- 17 DOWA METALS & MINING (THAILAND) CO.,LTD. (タイ)



DOWAメタルテック(株)

- 18 同和金属材料(上海)有限公司
- 19 DOWA METALTECH (THAILAND) CO.,LTD. (タイ)
- 20 Dowa Precision (Thailand) Co.,Ltd. (タイ)
- 21 シンガポール支店
- 22 深圳営業所
- 23 同和利精密部品股份有限公司(台湾)
- 24 DOWA METALTECH MEXICO, S.A. DE C.V. (メキシコ)

DOWAサーモテック(株)

- 25 DOWA THT AMERICA, INC. (アメリカ)
- 26 昆山同和熱処理工業股份有限公司
- 27 DOWA Thermotech (Thailand) Co.,Ltd. (タイ)
- 28 HIGHTEMP FURNACES LTD. (インド)
- 29 PT.DOWA THERMOTECH INDONESIA (インドネシア)
- 30 PT.DOWA THERMOTECH FURNACES (インドネシア)
- 31 DOWA THERMOTECH MEXICO, S.A. DE C.V. (メキシコ)

本社、その他

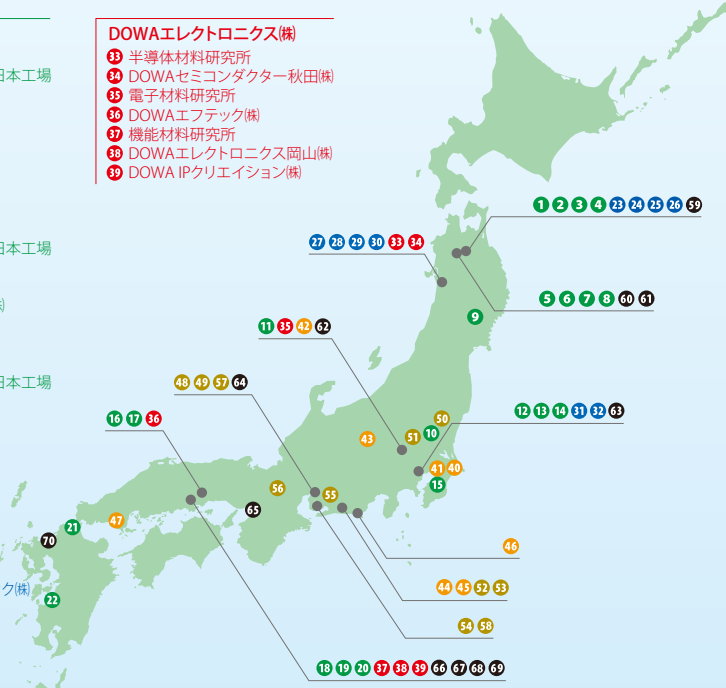
- 32 DOWA INTERNATIONAL CORPORATION (アメリカ)
- 33 DOWA INTERNATIONAL CORPORATION サノノゼ事務所 (アメリカ)
- 34 同和企業管理(上海)有限公司
- 35 同和企業管理(上海)有限公司 深圳分公司
- 36 DOWA HD Europe GmbH (ドイツ)
- 37 DOWA HOLDINGS (THAILAND) CO.,LTD. (タイ)

DOWAエコシステム(株)

- 1 グリーンフィル小坂(株)
- 2 エコシステムリサイクリング(株) 北日本工場
- 3 エコシステム小坂(株)
- 4 オートリサイクル秋田(株)
- 5 環境技術研究所
- 6 エコシステム秋田(株)
- 7 エコシステム花岡(株)
- 8 ㈱エコリサイクル
- 9 DOWA通運(株)
- 10 メルテック(株)
- 11 エコシステムリサイクリング(株) 東日本工場
- 12 エコシステムジャパン(株)
- 13 ジオテクノス(株)
- 14 イー・アンド・イーソリューションズ(株)
- 15 エコシステム千葉(株)
- 16 エコシステム山陽(株)
- 17 岡山鉱油(株)
- 18 エコシステムリサイクリング(株) 西日本工場
- 19 エコシステム岡山(株)
- 20 バイオディーゼル岡山(株)
- 21 光和精鉱(株)
- 22 アクトビーリサイクリング(株)

DOWAエレクトロニクス(株)

- 39 半導体材料研究所
- 34 DOWAセミコンダクター秋田(株)
- 35 電子材料研究所
- 36 DOWAエフテック(株)
- 37 機能材料研究所
- 38 DOWAエレクトロニクス岡山(株)
- 39 DOWA IPクリエイション(株)



DOWAメタルテック(株)

- 40 新日本プラス(株)
- 41 豊栄商事(株)
- 42 DOWA/ハイテック(株)
- 43 DOWA/パワーデバイス(株)
- 44 技術センター
- 45 DOWAメタル(株)
- 46 DOWAメタテクス(株)
- 47 TD/パワーマテリアル(株)

DOWAサーモテック(株)

- 48 環境技術開発センター
- 49 テクニカル・ソリューション&リサーチセンター
- 50 DOWAサーモエンジニアリング(株) 真岡工場
- 51 DOWAサーモエンジニアリング(株) 太田工場
- 52 DOWAサーモエンジニアリング(株) 浜松工場
- 53 DOWAサーモエンジニアリング(株) 浜松北工場
- 54 DOWAサーモエンジニアリング(株) 中京半田工場
- 55 DOWAサーモエンジニアリング(株) 豊田工場
- 56 DOWAサーモエンジニアリング(株) 滋賀工場
- 57 ㈱セム
- 58 東熱興産(株)

本社、その他

- 59 DOWAテクノリサーチ(株)
- 60 卯根倉鉱業(株)
- 61 秋田工管(株)
- 62 DOWAテクノロジー(株) 関東テクノセンター
- 63 本社
- 64 DOWAグループ名古屋支店
- 65 DOWAグループ大阪支店
- 66 DOWAテクノロジー(株) 西部テクノセンター
- 67 DOWAテクノエンジニア(株)
- 68 陽和工管(株)
- 69 同和興産(株)
- 70 DOWAグループ九州支店

連結財務情報

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	2014年度 2015.3.31	2015年度 2016.3.31	比較増減
資産の部			
流動資産	180,215	168,662	△11,552
現金及び預金	8,517	19,364	10,847
受取手形及び売掛金	73,126	62,202	△10,924
棚卸資産	81,597	69,277	△12,320
その他流動資産	16,973	17,817	844
固定資産	198,978	195,758	△3,220
有形固定資産	107,675	110,607	2,931
無形固定資産	10,990	10,296	△693
投資その他の資産	80,312	74,855	△5,457
資産合計	379,193	364,420	△14,772

流動資産のポイント

現金及び預金が108億円増加した一方、原材料及び貯蔵品が110億円、受取手形及び売掛金が109億円それぞれ減少したことなどにより、前連結会計年度末比115億円の減少となりました。

固定資産のポイント

建設仮勘定が43億円増加した一方、投資有価証券が59億円、機械装置及び運搬具が14億円それぞれ減少した結果、前連結会計年度末比32億円の減少となりました。

総資産のポイント

以上の結果、総資産は前連結会計年度末比147億円の減少となりました。

(単位:百万円)

科目	2014年度 2015.3.31	2015年度 2016.3.31	比較増減
負債の部			
流動負債	118,817	100,646	△18,171
支払手形及び買掛金	31,041	28,720	△2,321
短期借入金	30,459	32,407	1,948
コマーシャル・ペーパー	18,000	14,000	△4,000
その他流動負債	39,316	25,518	△13,798
固定負債	64,725	60,403	△4,322
社債	10,000	10,000	—
長期借入金	28,208	24,727	△3,480
その他固定負債	26,517	25,675	△841
負債合計	183,543	161,049	△22,493
純資産の部			
株主資本	165,731	182,211	16,480
資本金	36,437	36,437	—
資本剰余金	26,362	26,426	64
利益剰余金	108,630	125,049	16,418
自己株式	△5,699	△5,701	△2
その他の包括利益累計額	21,390	12,709	△8,681
非支配株主持分	8,528	8,449	△78
純資産合計	195,649	203,370	7,720
負債純資産合計	379,193	364,420	△14,772

負債のポイント

未払法人税等が61億円、有利子負債が55億円それぞれ減少したことなどにより、前連結会計年度末比224億円の減少となりました。

純資産のポイント

親会社株主に帰属する当期純利益を218億円計上し、配当金の支払いなどを行った結果、株主資本が164億円増加しました。また、その他の包括利益累計額が86億円減少しましたが、純資産合計では前連結会計年度末に比較し77億円増加しました。この結果、自己資本比率は53.5%となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	2014年度 2014.4.1~ 2015.3.31	2015年度 2015.4.1~ 2016.3.31	比較増減
売上高	464,219	406,598	△57,621
売上原価	391,509	337,314	△54,194
売上総利益	72,710	69,283	△3,427
販売費及び一般管理費	33,616	34,216	599
営業利益	39,094	35,067	△4,027
営業外収益	6,133	3,674	△2,458
営業外費用	3,190	3,685	495
経常利益	42,037	35,056	△6,981
特別利益	4,349	2,053	△2,295
特別損失	4,570	5,287	716
税金等調整前当期純利益	41,816	31,822	△9,993
法人税等	15,113	10,099	△5,014
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	158	△103	△262
親会社株主に帰属する当期純利益	26,543	21,826	△4,717

損益計算書のポイント

売上高は前連結会計年度比576億円減の4,065億円、営業利益は同40億円減の350億円、経常利益は同69億円減の350億円、親会社株主に帰属する当期純利益は同47億円減の218億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	2014年度 2014.4.1~ 2015.3.31	2015年度 2015.4.1~ 2016.3.31	比較増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	38,345	45,751	7,406
投資活動によるキャッシュ・フロー	△20,321	△23,486	△3,165
財務活動によるキャッシュ・フロー	△16,905	△11,159	5,746
現金及び現金同等物に係る換算差額	855	△248	△1,103
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,973	10,857	8,883
現金及び現金同等物の期首残高	5,823	8,044	2,221
現金及び現金同等物の期末残高	8,044	18,902	10,857

営業キャッシュ・フローのポイント

税金等調整前当期純利益318億円や減価償却費の計上151億円に加え、棚卸資産の減少118億円や売上債権の減少106億円などがあった一方、法人税等の支払い169億円などにより、457億円の収入となりました。

投資キャッシュ・フローのポイント

環境・リサイクル事業を中心とした設備投資などにより、234億円の支出となりました。

財務キャッシュ・フローのポイント

有利子負債の返済54億円や配当金の支払い55億円などにより、111億円の支出となりました。

役員



代表取締役社長

山田 政雄



取締役

光根 裕



取締役

中塩 弘



取締役

松下 克治



取締役

加賀谷 進



社外取締役

細田 衛士



社外取締役

小泉 淑子



社外監査役(常勤)

岩淵 順一



監査役(常勤)

雪竹 克也



社外監査役

武田 仁



社外監査役

中曽根 一夫

執行役員



上席執行役員
DOWAエコシステム(株)
代表取締役社長

佐々木 憲一



上席執行役員
DOWAサーモテック(株)
代表取締役社長

住田 敏郎



執行役員
DOWAメタルマイン(株)
代表取締役社長

関口 明



執行役員
DOWAエレクトロニクス(株)
代表取締役社長

大塚 晃



執行役員
DOWAメタルテック(株)
代表取締役社長

菅原 章



執行役員
DOWAテクノロジー(株)
代表取締役社長

山田 潔

会社概要・株式の状況 (2016年3月31日現在)

会社概要

創業	1884年9月18日	主な事業内容
設立	1937年3月11日	環境・リサイクル事業、
資本金	364億37百万円	製錬事業、電子材料事業、
DOWAグループの社員数	約6,100人	金属加工事業、 熱処理事業

株式の状況

会社が発行する株式の総数	1,000,000,000株
発行済み株式の総数	309,946,031株
株主数	11,348名

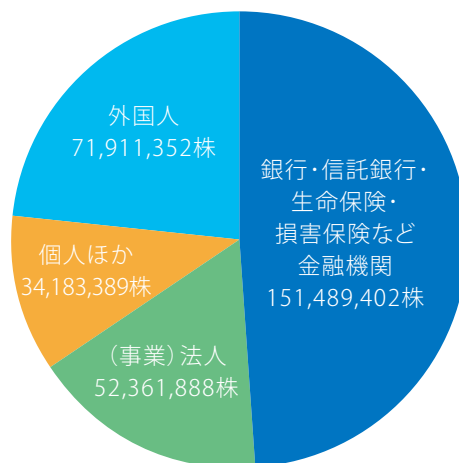
大株主

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8.79%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8.44%
藤田観光株式会社	4.79%
JFEスチール株式会社	3.74%
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A 380578	3.35%
全国共済農業協同組合連合会	3.06%
株式会社みずほ銀行	2.46%
株式会社りそな銀行	2.43%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2.42%
JP MORGAN CHASE BANK 385174	1.73%

主要子会社

DOWAエコシステム(株)	環境・リサイクル事業会社
DOWAメタルマイン(株)	製錬事業会社
DOWAエレクトロニクス(株)	電子材料事業会社
DOWAメタルテック(株)	金属加工事業会社
DOWAサーモテック(株)	熱処理事業会社

所有者別株式分布状況



株価および出来高の推移



株主メモ

決 算 期	3月31日
定 時 株 主 総 会	6月
基 準 日	3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告した日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
法定公告掲載新聞	日本経済新聞(東京)
株 主 名 簿 管 理 人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
(郵 便 物 送 付 先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電 話 照 会 先)	電話番号 0120-782-031(フリーダイヤル)
(ホームページアドレス)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

DOWAホールディングス株式会社

〒101-0021

東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX22階

電話番号 03-6847-1100

ホームページアドレス <http://www.dowa.co.jp>

表紙写真：DOWAメタニクス(株) 伸銅品工場

